

石綿含有建材調査者講習

学科試験

石綿含有建材調査者基礎知識

問題 1. 「石綿の物性」と「石綿の種類」に関する記述で誤っているものを選びなさい。

1. 石綿とは、繊維状ケイ酸塩鉱物の一部の総称でありケイ酸塩の含有成分の確認と共に、顕微鏡などで繊維状の性状を確認することが必要である。
2. 2006（平成 18）年 9 月施行の改正労働安全衛生法施行令において、全面的に製造・使用等が禁止された（一部の適用除外製品についても 2012（平成 24）年 3 月をもって全面禁止された）。
3. 蛇紋石族石綿は、クリソタイル 1 種類のみで、角閃石族石綿が 5 種類である。今まで世界で使用されてきた石綿の約 9 割以上がこの蛇紋石族石綿のクリソタイルある。
4. 石綿は、織物として織ることができ、燃えないで高温に耐え、腐らないで変化にくく、熱・電気を通しやすい。価格が安い等の多くの優れた性質を有するために建材、工業製品、民生用として使用されていた。

問題 2. 石綿による健康リスクについての記述で誤っているものを選びなさい。

1. 一般に中皮腫は、肺がんよりも少ない石綿ばく露量でも発症するがん性疾患である。
2. ガラス繊維保温材は、石綿障害予防規則の「レベル 2」含有建材に該当する。
3. 石綿肺、良性石綿胸水、びまん性胸膜肥厚は、がん性ではない良性疾患である。
4. 一般に中皮腫による死亡者数は 1995（平成 7）年は 500 人であったが、2015（平成 27）年には 1,500 人を越えた。

問題 3. 石綿関連疾患についての記述の中で、正しいものを選びなさい。

1. びまん性胸膜肥厚は石綿関連疾患の一種である。
2. 中皮腫の発生には、ばく露開始年齢は影響しない。
3. 米国および英国では多数の事例が報告されているが、我が国において、吹付け石綿の使用されている建築物内における労働に起因する中皮腫の発生事例の報告はまだない。
4. 石綿肺は石綿関連肺がんよりも潜伏期間が長いことが知られている。

問題 4. 次の記述の中で誤っているものを選びなさい。

1. 吹付け石綿のあった建築物で中皮腫になった事案で、建築物の所有者に責任が及ぶ可能性がある。
2. 食品製造業、薬品製造業、金融業、医料関連、百貨店などでは、建築物による吹付け石綿で中皮腫になり労災として業務上認定された事案が知られている。
3. 吹付けのある建築物でも、石綿肺の健康被害が知られている。
4. 吹付け石綿のある建築物で中皮腫や肺がんを発症した方が、毎年労災保険で業務上の疾病と認定されている。

問題 5. 石綿及び石綿含有建材の使用と使用状況の調査についての記述の中で、正しいものを選びなさい。

1. 維持管理を目的とした建築物石綿含有建材調査においては、その結果によって維持管理方針や管理計画などが立案されることから、高所・有毒ガスの発生個所など危険な部位についても、対応策を講じたのち、すべて調査する。
2. わが国では石綿はその大半が建築物に使用され、耐火材料としての利用では多くの尊い命を守り、財産を保全することに寄与した。
3. 2012 年以降は石綿及び石綿含有建材の一切の使用禁止に基づき、法改正以前に竣工した建築物は既存不適格建築物となり、その使用が禁止された。
4. 石綿のほとんどが天然に産出するが、一部は工場などで人工的に生産されている。

問題 6. 石綿関連法令についての記述の中で、誤っているものを選びなさい。

1. 大気汚染防止法では、石綿含有建材の使用が確認された場合は、工事の発注者が工事の届出を行わなければならないとされている。
2. 建設リサイクル法では、建築物等の分別解体等のための調査が義務付けられている。
3. 建築基準法では、建築物の増改築の際に原則として石綿の除去が義務付けられているが、増改築を行う床面積が増改築前の床面積の $1/2$ を超えない場合は、封じ込めや囲い込みの措置を行うことが認められている。
4. 労働安全衛生法及び石綿障害予防規則では、事前調査により石綿含有建材の使用が確認された場合は、建物所有者は作業員への特別教育を行わなければならないとされている。

問題 7. 「石綿含有建材調査者」に関する記述のうち、正しいものを選びなさい。

1. 調査においては、自らの石綿ばく露だけに注意することが必要である。
2. 石綿の含有状態の判断が困難な場合は、過去の同様の調査結果と照らし合わせて調査者の推測判断を行う。
3. 石綿含有建材調査者は、石綿に関する知識だけでなく、対策や工法にも精通しておくことが必要である。
4. 建築物の調査結果は、解体・改修工事の施工方法にのみに影響するが、その後の建築物の利活用の方法、不動産価値評価などには影響しない。

問題 8. 壁式RC造のように、床と外壁を一体化するように施工できる構造では、床と外壁の取り付け部分が耐火上の弱点になりにくいですが、はりに外壁を後で取り付ける場合には、外壁と鉄筋コンクリート床スラブとの間に隙間が生じやすい。こうした取り付け部分には、吹き付け材を充填することが多いが、外壁と鉄筋コンクリート床スラブとの間の取り付け部分に吹き付け材を充填した部分を一般に何と呼ぶか、正しいものを選びなさい。

1. 層間ふさぎ
2. カーテンウォールふさぎ
3. 層間充填部
4. 床スラブ延長部

石綿含有建材の建築図面調査

問題 9. 「建築一般」に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 建築基準法では、耐火建築物の階によって要求される耐火性能は同一である。
2. 解体・改修時の事前調査では、建築一般の知識を頭に入れておくことは見落としを防いだし、建材の代表性を誤って判断することを防止することにつながるため、非常に重要である。
3. 建築基準法では、建物利用者の生命及び安全の確保を図るため、建築物の防火規制を定めている。
4. 建築基準法において「壁及び構造上重要ではない間仕切り壁」は、建築物の主要構造部である。

問題 10. 耐火構造などの規制についての記述の中で誤っているものを選びなさい。

1. 劇場、映画館または演芸場の用途に供するもので、主階が 1 階にないものは耐火建築物としなければならない。
2. 市街地における火災の危険を防ぐために、地方公共団体が都市計画において防火地域などを定めている。
3. 用途が病院、診療所で 3 階以上の階は耐火建築物にしくなくてもよい。
4. 戸建住宅や事務所は特殊建築物ではない。

問題 11. 次の記述の（ ）に入る語句を下から選びなさい。

建築図面から石綿含有建材の使用が記載されている箇所を効率的に見つけるための二つの方法を紹介する。一つの方法は建築基準法の（ ）に着目する方法、もう一つは断熱や結露防止、吸音など設計者の設計思想に着目する方法である。

1. 斜線制限
2. 火災の危険
3. 都市計画
4. 防火規制

問題 1 2. 建築設備と石綿含有機材についての記述の中で誤っているものを選びなさい。

1. 昇降機のシャフト（昇降路）には、吸音のために吹き付け石綿が施工された。
2. ホテルのように部屋数が多く、個別制御が望まれる場合に用いられる空調方式（ファンコイルユニット）では、耐火だけでなく吸音を兼ねてファンコイル設置の場所の壁に吹き付け石綿を施工している。
3. 石綿含有保温材は、プラントや建築物の設備配管の保温や凍結防止として多用された。
4. 給排水設備では、石綿は耐火性能が必要な排水管に耐火二層管として使われただけでなく、耐久性が求められたパッキンにも使用されていた。

問題 1 3. 耐火構造についての記述の中で誤っているものを選びなさい。

1. 1964（昭和 39）年以前は、吹き付け石綿は耐火構造として告示に定められていなかった。
2. 1971（昭和 46）年に石綿含有吹き付けロックウールで被覆した鉄骨柱、鉄骨はりなどが耐火構造に指定された。
3. 2006（平成 18）年の建築基準法の一部を改正する法律の施行に伴い、それまでに行った指定はすべて廃止され、多くのものがあらためて新制度に基づく耐火構造として認定された。
4. 1964（昭和 39）年から 1987（昭和 62）年まで、柱、はり、壁について、鉄骨などを吹き付けで覆ったものが耐火構造として告示で指定されていた。

問題 1 4. 防火区画についての記述の中で、正しいものを選びなさい。

1. 電気設備のケーブルが上下階や壁を貫通する場合の防火区画貫通処理に、ケイ酸カルシウム板第一種を使用することが多い。
2. 階段や吹抜け、エレベーターのシャフトやパイプシャフトのように縦方向に抜けた部分は、煙突効果によって有害な煙や火災の熱を容易に上階に伝えてしまう。法令により、2 層以上の堅穴には、堅穴区画が必要となる。
3. 防火区画に接する外壁は、区画相互間の延焼を防ぐため、接する部分を含み 60 cm 以上の部分を耐火構造または準耐火構造としなければならない。
4. 同じ建築物の中に、用途や管理形態が異なるものが存在する場合（例えば複数のテナントが入るデパートと店舗・飲食店など）には、用途や管理形態の異なる部分を区画しなければならない。

問題 1 5. 建物の石綿建材調査のフローで、(1)～(4)に入る語句の順番が正しい組み合わせのものを選びなさい。

調査依頼→(1)→(2)→(3)→(4)→報告書提出

	(1)	(2)	(3)	(4)
1.	調査計画	現場調査	試料採取	劣化度判定
2.	ヒアリング調査	試料採取	分析結果確認評価	劣化度判定
3.	図面調査	試料採取	ヒアリング調査	報告書作成
4.	調査計画	現場調査	報告書作成	調査済票を貼付

問題 1 6. 建築物調査時の基本姿勢として正しいものを選びなさい。

1. 管理人から今日は 17 時までに調査を終わらせてほしいと言われたため、天井高の高い地下機械室ではボイラーの裏側で資材が山積みになっていた場所は省略した。
2. 建築物の北側を意識して、壁の裏側などを確認し、見落としのない調査をするように心がけた。
3. 5 階建ての事務所ビルで、2 階から 4 階までは同じレイアウトであると管理人からヒアリングしていたので、最上階の 5 階の天井を見た後、4 階から 2 階までのサンプルは、3 階で代表試料採取し、3 つに分けて 2 階、3 階、4 階事務室天井吹付け材とした。
4. 建築物所有者から直接指示を受け、すでに鍵なども預かっており、所有者から管理人室には連絡が入っている旨を事前に聞いていたので、当日は管理人室に立ち寄りヒアリングはせず、屋上のエレベーター機械室に向かった。

問題 1 7. 次の記述の に入る正しい語句の組み合わせを選びなさい。

現地調査における最大の留意点は (1) である。この (1) の最大の要因は (2) である。

	(1)	(2)
1.	図面との違いを探すこと	図面を読む力不足
2.	調査ミスをしないこと	調査漏れ
3.	試料採取を忘れること	調査時の記録忘れ
4.	しっかりとスケッチ(野帳)を描くこと	写真をたくさん撮らなかったこと

問題 18. 建築図面からの石綿含有建材の読み取り方についての記述の中で、正しいものはどれか選
びなさい。

1. 建築物概要書には、建物の用途、防火地域などの地域の種類、構造などの建築物の基本的な情報が記載されている。
2. 外部仕上表には、外壁の仕上工事における施工手順、施工方法等の詳細が記載されている。
3. 天井伏図は仕上表と重複しているため、石綿含有建材の施工箇所についての詳細な検討は不要である。
4. 内部仕上表からは、各部屋の天井、壁、床、軒天の部位ごとの内装工事に使用された建材の情報が入手できる。

問題 19. 現地調査における建築物外観の観察に関する記述の中で、正しいものを選びなさい。

1. 対象建築物の外観を観察する際は、隣の建物との境界部に沿って行い、密集地域で隣との境界部が確認できない場合は、建物正面のみから実施する。
2. 維持管理を目的とした建築物調査の場合、高所・有毒ガスなどの危険区域も原則として調査する。
3. 1,000 m²を超える建築物には、定礎を正面玄関部分の壁面に設置することが建築基準法で定められており、外観調査の際に最も重要となる観察箇所である。
4. 外観観察の際には、建物の構造に注視する。

問題 20. 現地調査の留意点について誤っているものはどれか選びなさい。

1. 調査者は、調査の経費や労力の低減、また正確性や信頼性の確保において調査全体のフローを考え、それに沿って行動することが望ましい。
2. 建築物調査において建築図面がない場合には、詳細調査に入る前のヒアリングなどの結果を踏まえて、外、屋上、基準階などを先に縦覧し、大まかな建築物概要を把握することは有効である。
3. 調査者は建築物の総合的な調査報告書を作成した場合、調査結果は特に依頼主からの指示がない限り、即時性を優先し郵送により報告する。
4. 調査者は、試料採取すべき箇所の特定と劣化度の判定、物理損傷などによる飛散のおそれの記録等を行い、建築物の建材使用状況を確認する。

問題 2 1. 「石綿含有建材情報の入手方法」に関する記述のうち、正しいものを選びなさい。

1. 石綿を含有する建材の最新情報については、国土交通省・経済産業省が公表している「石綿（アスベスト）含有建材データベース」を活用できる。
2. 建材の石綿含有情報とは、石綿を意図的か非意図的かを問わず工場等で混入していたという情報である。
3. 国土交通省・経済産業省が公表している「石綿（アスベスト）含有建材データベース」は、公表されて以降、無断改変による混乱を避けるため更新されていない。
4. 国土交通省・経済産業省が公表している「石綿（アスベスト）含有建材データベース」は公認されたものであるため、データベースで検索した建材（商品）がないことを以て、石綿無しの証明となる。

問題 2 2. 「書面調査結果の整理」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 調査を正確に行うためには、調査者がその調査対象部屋内でメモ書きなどによる記録や各シーンで多めの写真を撮影しておくことが大切である。
2. 書面調査結果については、現地調査において効果的に活用できるよう、①石綿含有建材等の建材をリストアップし、②動線計画を立てる、という 2 点を主な作業として整理する必要がある。
3. 計画段階では仮決定した対象建材や場所・数などを記入したもので発注者に承認をもらい、現地調査を行う。現地調査で採取した試料は、目視調査結果に基づいて確定し、発注者との打ち合わせを省略することができる。
4. 採取試料については、あらかじめ調査計画段階で発注者と協議して、仮決定しておくとその後の調査が円滑に進められることも多い。

現地調査の留意点

問題 2 3. 次の記述のうち、正しいものを選びなさい。

1. 分析機関の選定にあたっては技術的な側面よりも費用を抑えるためにコスト面でメリットのある分析費用の安い機関を選定することが最も重要である。
2. 石綿の分析を依頼する機関の選定に当たっては、外部委託せずに自社内で分析対応ができる機関へ依頼することが望ましい。
3. 建築物の解体作業前に同じ試料を 2 社に分析依頼したところ、A 社では石綿含有、B 社では無石綿との判定であった。工事に費用をかけたくなったため、B 社の結果をもとに石綿が使用されていない建築物として解体を実施した。
4. 平成 17 年に調査した際には分析の結果、石綿使用なしと判定された建築物を解体することとなった。当時の分析で無石綿と判断されているので石綿未使用の建築物と判断し、解体を実施した。

問題 2 4. 現地調査の留意点についての記述の中で誤っているものを選びなさい。

1. 調査時の服装のポイントは、調査作業中であることを第三者に伝えるという点と、粉じん暴露からの自己防衛という 2 点である。
2. 調査者は、事前に得られた情報を整理し、調査に必要な人数や前段取り・機材など調査全体にわたる計画を検討しておくことが重要である。
3. 調査を円滑に進めるための用品は多種にわたり、現地の状況によって過不足が生じることもあるので、対象の建築物に応じて十分検討して準備することがのぞましい。
4. 採取する対象物には石綿を含有している可能性もあり、また至近距離での採取作業となることから、試料採取に際しての呼吸用保護具は国家検定合格品の D S - 1 または D L - 1 のフィルター取り換え式防じんマスクの装置が望まれる。

問題 2 5. アスベスト様形態 (アスベスティフォーム) についての中で誤っているものを選びなさい。

1. アスベスト様形態とは、破碎または加工したときに、長く、細く、かつ柔軟で強い繊維に容易に分かれ、高い抗張力および柔軟性をもつ鉱物の繊維形態である。
2. クリソタイル、アモサイトは、アスベスト様形態の形態をしていない鉱物である。
3. アスベスト様形態では、長さ $5\mu\text{m}$ を超える繊維について 20 : 1 以上のアスペクト比 (縦横比) を持つ繊維が存在する。
4. アスベスト様形態の一つの特徴は、繊維束になっている互いに平行な繊維として光学顕微鏡で観察できることである。

問題 2 6. 「現地調査の実施要領」に関する記述のうち、正しいものを選びなさい。

1. 石綿含有建材の使用の有無については、改修工事が行われた場合でも、設計図書等に必ず明記されている。
2. 機械室などの現状の仕上げが比較的新しく見えた場合は、間違いなく改修工事があったことの証なので、あえて、関係者等へのヒアリングで確かめる必要はない。
3. 関係者へのヒアリングを行う際には、調査対象の建築物のことは石綿含有建材調査者よりヒアリング相手の方が詳しいので、相手の話を十分に聞いて否定しないこと。
4. 令和 3 年 4 月以降において、事前調査では、書面調査が十分に行うことができれば、必ずしも、現地調査は行わなくてもよい。

問題 2 7. 「現地調査の実施要領」に関する記述のうち、誤っているものを選びなさい。

1. 試料採取の注意事項として、採取する際には室内を閉め切り、調査者のばく露を防止するため、換気扇を稼働させる。
2. 適切な防護服又は専用の作業衣を使用し、採取後には HEPA フィルタ付き真空掃除機などで十分に付着した粉じんを除去した後、採取場所を離れる。
3. 試料採取の注意事項として、採取する際には、飛散抑制剤等で湿潤する。
4. 防じんマスクのフィルターは、調査対象建築物ごとに新しいものを取り替える。

問題 2 8. 「現地調査に臨む基本姿勢」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 機械室等狭隘部がある調査では、調査時に柱や壁に作業者等が接触し、粉じんが付着する可能性もある。退出時には、作業者の背中や使用した用品等に粉じん等の付着がないことを確認する。
2. 調査者は聞きたい事柄、調べておきたい事象について、依頼者の了解を得た上で、これらの情報を有する人に積極的に聞くように努めたい。
3. 増改築の有無については、増改築年は可能な限り年月まで記入する。
4. 同一パターンの部屋が続く場合は、他の部屋で試料を多めに採取し、それを小分けして他の部屋の分とする方が効率的である。

問題 29. 建材の石綿分析方法並びに規制の変遷についての中で正しいものを選びなさい。

1. 2008（平成 20）年に JIS A 1481 (2008) が改正され、吹き付けバーミキュライトの分析方法が追加された。
2. 1996（平成 8）年 3 月に吹き付け材の分析方法として基発第 188 号が発出され定性分析法として X 線回折法が示された。
3. 2016（平成 28）年 3 月に偏光顕微鏡を用いた定性分析方法（JIS A 1481-3）が制定され、石綿分析方法（JIS A 1481）は 3 部構成となった。
4. 2005（平成 17）年 6 月に石綿分析法として JIS A 1481 が制定され、その後、石綿の規制が 1 重量%から 0.1 重量%に変更になった。

問題 30. 石綿（アスベスト）含有建材データベースの建材名リストのうち約何（%）の品数がレベル 3 であるか選びなさい。

1. 90（%）
2. 95（%）
3. 80（%）
4. 85（%）

問題 31. 「試料採取」に関する記述のうち、誤っているものを選びなさい。

1. 吹き付け材においては、施工年によっては、石綿含有のものと無石綿のものとが混在している時期がある。
2. 吹き付け材は、現場において、吹き付け材料を対象物に吹き付けて完成するが、完成したものは材料組成が「不均一」になっている可能性が極めて高い。
3. 吹き付け材は、材料組成が「不均一」になっている可能性が高いので、試料採取は該当する吹き付け面積を 3 等分し、各区分から 1 個ずつサンプルを採取する。
4. 採取試料は、あらかじめ調査計画段階で「建築物石綿含有建材調査者のみの考え方」で、仮決定しておく、その後の調査が円滑に進められることも多い。

問題 3 2. 現地調査におけるレベル 3 建材の試料採取の留意点についての中で、誤っているものを選びなさい。

1. アスベテIFORMは、繊維束になっている互いに平行な繊維として偏光顕微鏡で観察できる。
2. 試料採取時に石綿含有建材から石綿繊維が飛散しないようにするため、噴霧器やペーパータオルなどで採取箇所を事前に十分湿らせておく。
3. 天井材の試料採取を行う場合、採取しやすい点検口のふたの部分が適切である。
4. 試料採取現場での試料間汚染を防止するために、試料採取の道具は初回使用前および毎回の試料採取後に必ず洗浄しなければならない。

問題 3 3. 現地調査の留意点についての記述である。これらのうち誤っているものを選びなさい。

1. 建築物の所有者が石綿対策工事はすでに完了していると説明していたとしても、その対策が除去工事なのか、封じ込め、または囲い込みなのか工事の内容を正しく理解していないこともあるので、過去の工事内容について現地で確認する必要がある。
2. 裏面調査で「無石綿」の表示が印刷されていた場合には、「石綿なし」と判断する。
3. 現地調査において調査者自身の石綿にばく露を防ぐことが基本である。取り外し調査が必要な場合であってもできるだけ建材の切断等は伴わないよう努める。
4. 吹き付け工法により施工された建材は、その施工時期のみによって、石綿が使用されていないという判断をしてはいけない。

問題 3 4. 「現地調査の記録方法」に関する記述のうち、正しいものを選びなさい。

1. 現地での調査写真撮影は、報告書を作成する石綿含有建材調査者とは別の者に行わせなければならない。
2. 石綿含有建材の判定は、「劣化」または「劣化なし（劣化が見られない）」という 2 局化した分類のみであり、その中間に該当する抽象的な判定を行わない。
3. 現地調査の記録方法のポイントは、現場で、「①迅速・簡易に情報を記入できるもの」、「②調査箇所に漏れがないこと確認しやすいもの」の 2 点が挙げられるが、「調査・判断の流れに沿って記入しやすいもの」とする必要はない。
4. 調査の記録について、調査する部屋が多いときは、記憶違いや記載ミスをなくするため、各部屋の調査が終了するごとに調査メモを作成する。

問題 3 5. 建築物石綿含有調査者報告書の作成についての記述の中で、正しいものを選びなさい。

1. 自治体では現地調査個票・写真集を基に建築物データベースに保存することとなる。
2. 建築物の維持管理のための調査では、すべての建材について石綿含有の有無を、依頼者に報告する。
3. 現地調査総括票及び現地調査個票の記入項目について、不明および該当内容がない場合はそれぞれ「不明」、「－」と記載し、空欄としない。
4. 建築物石綿含有建材調査者報告書は、現地調査総括票、表紙、現地調査個票・写真集の 3 構成で作成する。

問題 3 6. 石綿障害予防規則に基づく調査記録（平成 30 年 4 月 20 日基安化発 0420 第 1 号）についての記述で、誤っているものを選びなさい。

1. セクショナルボイラーなどの機械内部に組み込まれたパッキンなどは、実質的に調査者が確認することが不可能であるため、記載は不要である。
2. 石綿を含有しないと判断した建材は、その判断根拠を示すこと。
3. 石綿含有建材の有無と使用箇所を明確にする。（解体・改修工事の作業員へ石綿含有建材の使用箇所を的確に伝えるため）
4. 調査の責任分担を明確にする。（同一材料範囲の特定など、重要な判断を行った者を報告書に記載する）

問題 3 7. 現地調査総括票のうち、調査者からの今後の維持・管理のためのアドバイスについての記述のなかで、誤っているものを選びなさい。

1. 年数回しか使用されないような部屋のリスクは低いため、石綿濃度測定の優先度は低くなる。
2. 未成年者や不特定多数の人が使用する部屋はリスクが高いため、劣化度が「やや劣化」であっても、石綿濃度測定と慎重な管理を推奨すべきである。
3. 部屋の使用頻度などが判断可能な場合には、当該建築物の使用による今後の石綿の健康リスクに応じた記載が望ましい。
4. 建築物の管理は石綿含有建材調査者の責任範囲となるため、劣化の判断を主としつつ、リスクに応じたアドバイスが必要である。

問題 3 8. 現地調査総括票のうち、調査者からの今後の維持・管理のためのアドバイスの記入についての記述である。誤っているものを選びなさい。

1. 天井の石綿含有吹き付けロックウールに擦過痕がある場合、触れると石綿飛散の恐れがあることの注意書きを表示するようアドバイスした。
2. 石綿含有スレート板・平板の施工方法としては、釘の直打ちが一般的である。
3. 床に多数の石綿の破片があり石綿飛散の可能性が懸念される場合、石綿濃度測定の速やかな実施と部屋への立ち入りの注意喚起などについて記載するとよい。
4. 吹き付け石綿が露出し、また一部損傷状態で「やや劣化」であったため、将来的には除去することを推奨した。

問題 3 9. 現地調査総括票のうち、調査者からの今後の維持・管理のためのアドバイスの項目についての記述である。正しいものを選びなさい。

1. 措 置：石綿含有建材の状況に応じて、囲い込みや封じ込めなど、早期に対応すべき方策などを記入する。
2. 対 策：石綿の除去に向けた中長期的な計画について記入。
3. 維 持：日常の維持管理で注意すべきことを記入する。
4. 調査管理：建築物の室内環境について記入する。

問題 40. 所有者等への報告についての記述である。正しいものを選びなさい。

1. 建築物等の所有者は、石綿飛散防止対策に責務を有していることから、解体・改修工事や石綿の除去までは記録を保存するが、その後は廃棄してもかまわない。
2. 調査結果を報告するときは、調査対象建築物等の石綿含有建材の使用の有無のみについて行い、石綿の健康影響に関するリスクの説明などは専門外のため避けるべきである。
3. 調査目的・調査結果によっては石綿障害予防規則や大気汚染防止法に基づく届け出等の説明が必要となる場合がある。
4. リスクコミュニケーションの知識とその実施に関する技術などを踏まえ、建築物所有者の立場から説明する。